明倫ヘルスケアグループ CSRレポート2025



タイトル「夜空のむこう」
撮影者　杉本翔一（医療法人明倫会宮地病院　事務部　経営企画課）

Meirin Healthcare Group CSR Report 2025

CONTENTS

ごあいさつ …… 2
医療法人明倫会理事長
社会福祉法人明倫福祉会理事長　宮地千尋

明倫ヘルスケアグループの理念 …… 3

特集①　人を守る医療・介護へ ― 明倫ヘルスケアグループのノーリフトケア …… 4

特集②　明倫会ひがしなだ推し活会議 ― 地域と病院が“推し合う”関係づくり …… 6

特集③　ダイバーシティ・ウェルビーイング プレイスへ ― 深江みらいフェス …… 10

顧客のために …… 12
●「その人らしく生きる」を支える　●地域とともに進める認知症支援

地域社会のために …… 14
●ポラリスが結ぶ人と人　●地域の健康を育む栄養支援
●地域とつながる輪　●次世代の医療・介護人材を育む
●保育園

職員のために …… 22
●職員の力が活きる職場へ　●医療DXの深化と発展
●明倫ヘルスケアグループのスーパースター

記事掲載・研究発表・院外研修 …… 28

各種統計 …… 29

明倫ヘルスケアグループのあゆみ …… 35

組織図 …… 36

施設紹介 …… 37
●宮地病院　●本山リハビリテーション病院　●介護老人保健施設あずさ　●介護老人福祉施設ぽー愛
●介護老人福祉施設愛しや　●介護老人保健施設愛しや　●サービス付高齢者向け住宅潮騒の家

施設一覧 …… 40



ごあいさつ

2025年1月17日、阪神淡路大震災後30年を迎えました。阪神淡路大震災で全壊した宮地病院は、地域の方々の再建を待っているという声に励まされて再建し今日があります。地域住民、職員の中にも阪神淡路大震災を知らない人たちが増えています。私たちが壊滅的な被害を受けたこの地域と共に復興してきた記憶、経験は未来に語り継がなければならないと思います。

人口が減少するこれからの時代において地域の未来を拓くために、私たちは医療・介護・福祉、生活支援に加え、地域と共創しまちづくりをすることが必要と考えています。私たちは医療の下支えのある生きる喜びに満ちた小さな街「ホスピタウン」を創ることを目指しています。そこにはこども、高齢者、障害を持つ方、ワカモノ、外国人など多様な方々が集い交流し支えあう場所が必要と考えています。それを形にするダイバーシティ・ウェルビーイング　プレイス　「おどり・松・てらす」の建設の第一歩を踏み出すことができました。地域の方々と共に創るまちづくりの拠点として今後が楽しみです。

この報告書は当グループの2025年度の活動を様々な面から組織横断的に表した記録です。ご一読いただき、忌憚のないご意見を賜るとともに、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

医療法人明倫会　理事長
社会福祉法人明倫福祉会　理事長
宮地 千尋

明倫ヘルスケアグループの理念

WE ARE ONE
共に未来を拓く

「その人らしく生きる」
を支え続けるために、

わたしたちはともに
医療と福祉から地域の未来を拓きます。

行動指針

5つの行動指針

1. わたしたちは、信頼される医療・福祉サービスを提供します。**「信頼」**
2. わたしたちは、地域のどなたとも手を取り合います。**「共生」**
3. わたしたちは、ひとり一人の幸せを尊重します。**「幸せ」**
4. わたしたちは、地域と共に成長し続けます。**「成長」**
5. わたしたちは、環境に配慮した事業活動を進めます。**「エコ」**

ホームページよりご参照下さい。
https://meirinhealthcare.com/profile/ideology

人を守る医療・介護へ 明倫ヘルスケアグループのノーリフトケア

2025年3月、宮地理事長による「ノーリフト宣言」を契機に、明倫ヘルスケアグループ全体でノーリフトケアへの本格的な取り組みがスタートしました。運営会議メンバー・推進会議メンバーを中心に、器具の使用手順書の作成や動画教材の制作を進めるとともに、各施設で研修会を重ね、着実に技術の浸透を図ってまいりました。そして取り組みから1年を迎えた2026年3月、グループ独自の認証制度である「ノーリフトケア認定試験」を初めて実施いたしました。



ノーリフトケアとは

患者・被介護者の「押さない・ひかない・持ち上げない・運ばない」ケアを徹底することで、看護者や介護者の腰痛予防だけでなく、ケアを受ける側の褥瘡や拘縮も抑制するためのケア方法です。

人間の身体の仕組みを活かした自然な動き（ボディメカニクス）を工夫したり、福祉器具や補助用具を効果的に活用したりすることで、お互いにとって安全で快適なケア環境を実現します。

明倫ヘルスケアグループの認証制度とは

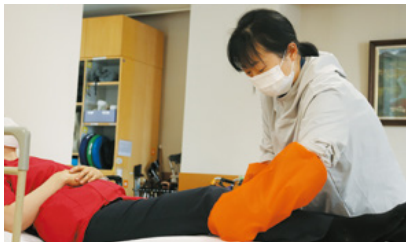
3月2日・6日・9日の3日間にわたり、明倫ヘルスケアグループ独自の認証制度である「ノーリフトケア認定試験」を初めて実施しました。

初回の合格者は、グループ全体で41名にのぼり、認定証と認定バッジが授与されました。

合格者は普及のリーダーとして、それ以外の方も現場の実践者として、全員でノーリフトケアを広めていくことを期待しています。



器具紹介



ポジショニンググローブ
利用者の体にやさしくフィットし、少ない力で安全に体位変換が行えます。



リフト
利用者を持ち上げることで、職員の身体的負担を軽減しながら安全に移乗をサポートします。



スライディングボード
ベッドと車いすの間の移動を滑らかにし、持ち上げずに安全な移乗を可能にします。



スライディングシート
摩擦を軽減することで、ベッド上での移動や体位変換を少ない力で行えます。



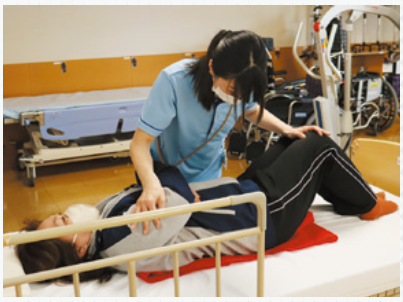
イージーモーション
利用者の自然な動きを引き出しながら、無理のない移乗や移動を支援します。

認証者の声 -職員院内研修-

ノーリフトケアの実現に向け、福祉用具の活用を基盤とし、職員と患者様双方の身体的・精神的負担の軽減と、安全で質の高いケアの提供を推進しています。認定試験を通じて正しい知識と技術の習得を促し、現場での実践力向上に取り組んでいます。職員間で知識と技術を共有し、継続的な実践と環境整備を進め、現場への普及・定着に努めてまいります。また、退院支援などにもノーリフトケアを取り入れ、病院から地域（在宅）へとその取り組みが広がっていくことを目指し、支援につなげていけたらと思っています。



本山リハビリテーション病院　4階病棟
菅村早織









宮地病院　リハビリテーション科
松本　渉

誰もが笑顔で過ごせる環境を目指し、ノーリフトケアを推進しております。この取り組みは患者様の尊厳を守る質の高いケアに繋がるだけでなく、現場で働く職員の健康を守るためにも不可欠と考えております。専門講座で得た確かな知識・技術をベースに、法人全体へ「持ち上げない・抱え上げないケア」を定着させ、関わる全ての人に優しい、安心と信頼の輪を広げていきたいと考えております。

ノーリフトケア説明会 -家族様へ-





明倫会ひがしなだ推し活会議―― 地域と病院が“推し合う”関係づくり

医療法人明倫会は、地域の皆さまとともに歩み地域に根ざした活動を続けてきました。

その中で、地域と“推しつ推されつ”の関係を育みながら、もっと身近で温かなつながりを広げていきたいという想いから、2025年4月に「明倫会ひがしなだ推し活会議」を発足しました。

「この地域が好き」「明倫会が好き」という気持ちをきっかけに、人と人、人と地域がつながる新しいコミュニティづくりを進めています。病院をハブに、多様な世代や地域の仲間がつながり、東灘のまちに新たな活力を生み出していきます。



明倫会ひがしなだ推し活会議って？

「明倫会ひがしなだ推し活会議」は地域と“推しつ推されつ”の関係づくりをテーマに、地域と病院が一緒になって東灘地域を盛り上げていくプロジェクトです。

メンバーは「興味があれば誰でも、なんでもOK」という形で募集し、約50名が参加。病院職員だけでなく、地域住民、事業者、ボランティアなど、多様な立場のメンバーが集まっています。会議は2か月に1回のペースで開催しており、2025年度は6つのチームに分かれて活動しました。各チームでは、「地域でこんなことをしたら面白いのでは」というアイデアを自由に出し合い、企画・検討・実行までをメンバー主体で進行。その成果の多くは、当院最大の地域交流イベント「みやじフェスタ」にて実際の企画として形になり、地域の皆さまに向けて発信されました。

Aチーム　醸せ！明倫会カルチャースクール

地域の皆さまに広くご参加いただき、宮地病院を“人が集い、交流し、文化を育む場”として親しんでいただきたいという思いから、法人主催のカルチャースクールを開講しました。子どもから大人まで楽しみながら学べる内容を企画し、地域交流の新たな場づくりを目指しています。

●第1弾「紙飛行機大作戦!紙飛行機とクリップのふしぎ」

紙飛行機を実際に作って飛ばす実験を通して、「なぜ物が飛ぶのか」という仕組みについて楽しく学んでいただきました。当日は約20名の親子連れの皆さまにご参加いただき、会場には子どもたちの元気な声と笑顔があふれました。参加者からは「遊びながら勉強できて楽しかった」「家でもやってみたい」など、多くの好評の声をいただきました。大変ご好評をいただいたことから、2026年度の開催も決定しています。





●第2弾「アロマと工作ワークショップ」

自分の好きな香りを選びながら、オリジナルのアロマスプレー作りを体験していただきました。香りの配合にもこだわり、一人一人が“世界にひとつだけ”の特別な香りづくりに挑戦。完成したアロマスプレーを活用し、香りを楽しめるフェルト作品づくりも行いました。手先を使った工作や香りの体験を通して、心もリフレッシュできる和やかな時間となりました。

今後も、地域の皆さまが気軽に集い、学びや交流を楽しめる場として、さまざまな企画を展開してまいります。

Bチーム　推し！推し！明倫会かるた大会

地域の皆さまと一緒にオリジナルかるたを制作し、子どもたちに楽しんでもらおうという思いから企画したイベントです。読み札の文章は地域の皆さまから広く公募し、絵札は地域のアートスクールに通う未就学児の子どもたちに制作を依頼しました。地域の多くの方々の協力によって、世界に一つだけのオリジナルかるたが完成しました。大会当日は、迫力のある特大サイズの絵札を用意し、子どもたちが走って札を取りに行く形式で実施。会場はまるで運動会のような活気に包まれ、歓声と笑顔あふれる大盛況のイベントとなりました。また、読み札の読み上げは近隣高校の放送部の生徒の皆さまに担当していただきました。子どもから高齢者まで幅広い世代が関わり、地域全体で作り上げた温かみのある大会となりました。



1対1の通常サイズで絵札を取り合う部も実施。大人同士の真剣勝負で白熱した戦いが繰り広げられました。

Cチーム　うきうきみんなでクッキング

地域の祖父母世代と孫世代の交流を深めることを目的に料理教室を開催しました。世代を超えて一緒に調理や食事を楽しむことで、自然なコミュニケーションが生まれ、会場は終始あたたかな雰囲気に包まれていました。病院主催ならではの取り組みとして、メニューには健康に配慮した内容を取り入れ、さつまいもやかぼちゃなど旬の食材を使用。季節を感じながら、おいしく健康的に食べることの大切さを学んでいただきました。また、調理の待ち時間にも楽しんでいただけるよう、セラピストによるレクリエーションや、ボランティアの方による読み聞かせ・お話の時間、管理栄養士による健康講話などを実施しました。参加者同士の会話も弾み、笑顔あふれる交流の場となりました。







Dチーム　いくつになっても楽しくのもう！秋の酒蔵ツアー





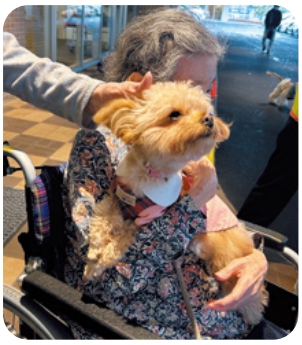


「お酒＝健康に悪い」というイメージを持たれがちですが、本企画は“健康的なお酒の楽しみ方”を学びながら、お酒を楽しんでいただくことを目的としています。まず管理栄養士とセラピストによる「健康なお酒の飲み方」のレクチャーを受けていただいた後、灘五郷（なだごごう）がある神戸・東灘の酒蔵を巡るツアーを実施しました。ツアーでは2か所の酒蔵を訪れ、日本酒の試飲や自由見学やお買い物を楽しんでいただきました。ツアーの最後には病院へ戻り、赤提灯を飾って乾杯。いつもの病院ロビーがまるで居酒屋のような空間へと大変身しました。また、管理栄養士監修のもと、ヘルシーなおつまみをレシピ付きで提供しました。「いつまでも大好きなお酒を楽しんでいただきたい」そんな思いを込めて、活動を続けています。

Eチーム　あつまれ！ロウケンの森









お散歩体験や動物とのふれあいコーナーをはじめ、「自慢のペットを紹介したい」という飼い主の皆さまに向けて、フォトコンテストや“推しワン選手権”などの一芸披露企画も開催。それぞれのペットの個性あふれる姿に、会場は笑顔と歓声に包まれました。

また、地域の獣医師の方々にもご協力いただき、日頃の飼育に関する悩み相談や将来ペットが高齢になった際のケアについて相談できるコーナーも設置しました。

さらに、隣接するサービス付き高齢者向け住宅や介護老人保健施設の入所者の皆さまにもご参加いただき、世代を超えた交流の場として大変盛り上がるイベントとなりました。動物とのふれあいを通して、地域のつながりや癒やしを感じていただける温かな時間となりました。

Fチーム　ワカモノ未来デパート（高校生百貨店）



中学生から社会人までの若者メンバーが、商品の仕入れから販売までを主体的に行う「ワカモノ未来デパート（高校生百貨店）」を病院売店跡地を活用して開催しました。当初は9月からの1か月限定での開店でしたが、患者様や職員の皆さまから大変ご好評をいただきました。その後、「みやじフェスタ」で再び開店していただきました。若い世代が自ら考え運営に携わることで地域とのつながりや社会経験を深める場となっており、病院に新たなにぎわいをもたらしています。来院された皆さまからも、「若い人たちの頑張る姿に元気をもらえる」といった温かい声が寄せられています。

みやじフェスタ







模擬店
バザー













- スタンプラリー
- 水彩画展
- あつまれ！ロウケンの森
- うきうきみんなでクッキング
- 推し！推し！明倫会かるた大会
- いくつになっても楽しくのもう！
  秋の酒蔵ツアー（前夜祭開催）



今後の展望

年に1度、地域の皆さま向けに「あの病院って楽しいところだよ」ということを知っていただくために開催しているのが、こちらの「みやじフェスタ」です。「明倫会ひがしなだ推し活会議」との相乗効果で、職員や地域の方々から幅広くアイデアを募り、2025年度は様々な企画が実現し、地域の皆さまとともに楽しい空間を創り上げることができました。

推し活会議では、今後より一層地域での輪と理解を広げていくことを目指しております。病院を、病気のときにだけ行く「治療の場」から、楽しそうだから行きたいと思えるような「ワクワクする皆さまの集い場」として。病院・施設と地域がお互いに温かく支え応援し合える関係づくりを進めてまいります。



宮地理事長

ダイバーシティ・ウェルビーイング　プレイスへ――深江みらいフェス

2027年のオープンに向けて、新施設「おどり松てらす」の計画がいよいよ本格的に動き始めました。その第一歩として、建設予定地である神戸・深江の地で解体祭「深江みらいフェス」を開催。「建物を壊す日」から、地域との繋がりを深める「新たな始まりの日」へという位置づけで、これまでこの場所が紡いできた歴史に感謝しながら、新たな役割を担う場所へと生まれ変わる節目を、関係者や地域の皆さまとともに迎えました。

新施設は、「人・街・ペット」が共生するという新しい未来に向けて、自然と笑顔が集まるような場所を目指します。こちらでは、未来への期待を胸に行われた解体祭の様子をご紹介します。

私たち明倫福祉会は神戸市東灘区の深江にある神戸大学（旧神戸商船大学）の学生寮「養正館」跡地に高齢・障がい福祉分野を含む複合型福祉施設を2027年のオープンを目指して建設することになりました。

昭和初期に建設された歴史ある養正館を解体するにあたり、ただ「解体→建設」で終わるのではなく、地域の歴史と思いを未来に繋げるべく、法人手作りの解体前イベント「深江みらいフェス」を2025年2月に開催しました。











飲食やゲームだけでなく、地元企業や動物病院、歴史史料館にも協力していただき、ワークショップやドッグカフェ、深江の歴史ブースなど多種多様なコンテンツを用意。当日は700名以上の地域住民の皆さまが来場してくださり思い出を共有することができました。

おとなも子どもも、高齢の方も障がいがある方もワンちゃんも、みんなが集う素敵な空間を目指して私たちは歩み始めています。

今後の展望



宮地理事長

我々明倫ヘルスケアグループは、その地域住民の方々の健康だけではなく、介護・福祉・生活に至るまで、その一人一人の人生に寄り添い、その先にある「街づくり」に取り組もうとしています。医療の下支えのある街「ホスピタウン」構想に即しているのが、この新・複合施設「おどり・松・てらす」建設プロジェクトです。高齢者だけではなく、子どもたち・ワカモノ・若者・障がい者・外国人といった様々な人々が分け目なく集い、遊んだり教え合ったり交流できる場所を目指しています。神戸・深江の地における街づくりを、一方通行的にではなく「みんなで一緒にやっていこう」という想いから、2026年現在クラウドファンディングにも挑戦中です。



一番の特徴はドッグランがある、つまりペットと共生できるという点です。前述の推し活会議企画「あつまれ!ロウケンの森」では約20匹のワンちゃんが会場に集まり、飼い主・子ども・高齢者といった皆さまが動物とともに楽しい空間を創り上げました。また、こちらの「深江みらいフェス」でも、ドッグカフェを設けて来場者の方々に自由にワンちゃんを連れて来ていただき、ハートフルで新しい施設の誕生を予感させました。

この「ホスピタウン構想」は、少しずつではありますが着実に姿を見せ始めています。引き続き皆さまの温かい応援とご理解をいただければ幸いです。









顧客のために

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉の増進に努めます。包摂的かつ持続可能なまちづくりについて、医療・福祉の面から実現を目指します。

「その人らしく生きる」を支える

患者様同士が自然に会話できるような温かい雰囲気をつくり、刺激があって楽しめる場をつくることを大切にしています。本山リハビリテーション病院オリジナルのレクリエーション「ゆまれく」と、介護老人保健施設あずさでの企画をご紹介いたします。

ゆまれく

本山リハビリテーション病院

～ユマニチュードを取り入れたレクリエーション～



当病棟では2025年度TQM活動で、認知症患者様の認知機能低下予防とQOL向上を目的に、ユマニチュードを取り入れたレクリエーション「ゆまれく」に取り組みました。コロナ禍により、患者様同士やスタッフとの交流の機会が減少し、活動量の低下や意欲低下がみられるようになっていました。そこで、「見る・話す・触れる・立つ」を基本としたユマニチュードの関わりを意識しながら、安心して参加できるレクリエーションを実施しました。

「ゆまれく」では、季節に合わせた内容をし、患者様同士が自然に会話できるような雰囲気づくりを大切にしました。その結果、患者様の笑顔や発言が増え、自ら参加しようとする姿や、他者との交流がみられる場面も増加しました。また、スタッフも患者様一人一人に寄り添う意識が高まり、日常ケアの中で自然にユマニチュードを実践できるようになっています。

このように、「ゆまれく」は、単なるレクリエーションではなく、人と人とのつながりを大切にした関わりの場となっています。今後も患者様が安心して過ごせる環境づくりを目指し、継続して取り組んでいきたいと考えています。

介護老人保健施設あずさ

HAPPYマルシェ






地域のみなさまと施設をつなぐ試みとしてスタートした、2ヶ月に1回の定期マルシェ。

回を重ねるごとに「今月は何があるの?」と楽しみにしてくださるリピーターの方や、ご家族連れでのご来場が増え、会場は毎回たくさんの笑顔と賑やかな笑い声に包まれました。

季節ごとに趣向を凝らした出店や企画を通して、当初の目的であった「地域に開かれた施設づくり」が少しずつ形になってきているのを実感しています。

支えてくださった出店者のみなさま、そして足を運んでくださった地域のみなさまに、心より感謝申し上げます。次年度も、みなさまが気軽に集い、ホッとできるような温かいマルシェを企画してまいります。

昼食レクリエーション

にこにこデイケアでは、心もお腹も満たされる特別な昼食企画が盛り上がっています!

施設内で居酒屋気分を味わう「にこデイ居酒屋」では、地域の飲食店の味をみんなで堪能。また、近隣のファミリーレストラン等へ出向く「外食レクリエーション」では、ご自身で好きなメニューを選ぶ楽しさや、外の空気を吸うリフレッシュのひとときを過ごしていただきました。美味しい食事を目標に、日々のリハビリにも一層力が入るみなさまでした。




地域とともに進める認知症支援

認知症になっても、住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けられる社会を目指して。当院では地域における認知症医療の拠点として、相談支援や専門医療の提供に加え地域住民や関係機関との連携を深めながら認知症への理解を広げる取り組みを進めています。

認知症疾患医療センターを中心に、地域に寄り添った支援体制の充実を図るとともに教室や啓発活動などを通じて、誰もが安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいます。

認知症医療疾患センターの役割



高齢化が進む中、認知症は誰にとっても身近な課題となっています。宮地病院では、地域の皆さまが安心して相談できる窓口として、認知症疾患医療センターを設置し、認知症の早期発見・早期対応から、診断後の支援まで幅広く取り組んでいます。

認知症疾患医療センターでは、専門医による診断や治療をはじめ、本人様や家族様からの相談対応、必要に応じた医療・介護機関との連携などを行っています。「物忘れが増えた」「受診した方がよいか分からない」といった段階から相談できる体制を整え、地域の“最初の相談先”としての役割を担っています。

また、認知症は医療だけで支えるものではなく、地域全体で理解を深め、支え合うことが重要です。当センターでは、認知症に関する教室や啓発活動を通じて、地域住民の皆さまへの情報発信にも力を入れています。認知症への正しい理解を広げることで、本人様や家族様が孤立することなく、安心して暮らし続けられる地域づくりを目指しています。

教室・イベント

ほのぼのカフェ
認知症発症や進行の予防を目的に、多様なイベントを開催しています

いきいき教室
音楽療法や脳トレによりもの忘れを予防し、認知機能の維持・向上を目指します

おれんじたっち
月に一回保育園の2歳児と遊び、子供たちの成長に寄与していただく活動です

オレンジの輪
認知症予防に効果的とされるダンスを学ぶ教室で、交流の場にもなっています

広報オレンジ
コラムや脳トレ等も掲載し、センターについて知っていただける内容になっています



認知症マフへの取組





認知症マフとは、筒状に編まれたカラフルなニット製品で、認知症の方の落ち着かない手をやさしく包み込み、安心感をもたらすケア用品です。触覚や視覚への刺激を通じて、不安の軽減や心の安定につながる取り組みとして活用されています。

当院でも、入院中の患者様にご利用いただいており、現場での活用の幅が広がっています。また、制作にあたっては地域の皆さまにもご協力いただき、地域とともに認知症支援を進める取り組みの一つとなっています。

地域社会のために

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉の増進に努めます。包摂的かつ持続可能なまちづくりについて、医療・福祉の面から実現を目指します。

ポラリスが結ぶ人と人

人と人とのつながりを大切にし、地域とともに未来を拓く――。2025年7月に完成した「ポラリスホール」は、明倫ヘルスケアグループの理念「WE ARE ONE ― 共に未来を拓く ―」を体現する、新たな地域交流拠点として誕生しました。

ポラリスホール開設

多目的ホールの愛称は、職員や地域住民の皆さまからの公募により、「ポラリスホール」に決定しました。「ポラリス」はラテン語で北極星を意味し、明倫ヘルスケアグループのロゴマーク中央にも表現されています。そこには、「私たちは、医療・介護・福祉の仕事をする時に、思いやりの心を持って励むことで、天空で動かない北極星のように、周りの人から見習われる、ブレない存在になるであろう」という想いが込められています。



ポラリスホールは、病院行事だけでなく地域の皆さまにも広くご利用いただける場として、多世代が集い、新たな交流やつながりが生まれる空間を目指しています。これからも、多くの方に親しまれ、地域に開かれた交流の場となるよう取り組んでまいります。



防災講演会







「ポラリスホール」こけら落としイベントとして、6月21日に防災講演会を開催しました。記念すべき第1回は、神戸市のご出身で地域史に詳しい歴史家　田辺眞人先生による特別講演「歴史の中の神戸の震災から～経験から学ぶ減災の知恵～」です。

「歴史学は単に年代を覚えるだけの学問ではない。人間は未来に向かって現在を生きていかなければならないものであり、過去の出来事を教訓として活かそうとすることこそが肝心である。」と田辺先生。古文書を基に、約400年ごとに地震が摂津地方を襲っているという事例から、地形の違いによって生まれる被害の違いの話に至るまで、歴史的視点のみならず地理的観点からも多角的に解説していただきました。

神戸は急峻な地形であり、地震だけではなく雨季の土石流災害等のリスクも考慮しなければなりません。古い時代の記録は現在の災害被害にも通ずるものがあり、備えの大切さについて改めて考える良い機会になったのではないでしょうか。

保育園
園児たちの遊びの場として



カンフーサークル
外部カンフーサークル団体の練習場として



カルチャースクール
明倫会主催のカルチャースクール開催の
場として地域の方々にご利用いただいています





在宅部門移転報告

2025年4月在宅部門等の移転も全て完了しアネックスMとして生まれ変わりました!

1F
- 本山東部あんしんすこやかセンター
- ヘルパーステイションもとやま
- 居宅介護支援事業所
- 愛マッサージ

2F
- 訪問看護センター
- キッズルームころねん

3F
ポラリスホール



地域の健康を育む栄養支援

明倫ヘルスケアグループでは、地域の皆さまが安心して健やかに暮らせる社会の実現を目指し、「地域の健康を育む栄養支援」に取り組んでいます。高齢化や生活習慣病の増加など地域医療を取り巻く課題が多様化する中、食と健康をつなぐ支援は、心身の健康維持や疾病予防に欠かせない重要な役割を担っています。医療・介護・福祉の各分野と連携しながら、栄養相談や健康啓発活動を通じて、一人一人のライフステージに寄り添った支援を推進しています。

東灘☆もとやま認定栄養ケア・ステーション

N café



「N　café（エヌカフェ）」は東灘☆もとやま認定栄養ケア・ステーションが主催する、からだとこころの栄養メンテナンスを目的としたほっこり一息つけるニュートリション（栄養）カフェです。※N caféの「N」はNutritionのN

臨床医療の現場で経験を積んだ管理栄養士が関わり、医療・介護・企業・行政、そしてこのまちで暮らす地域住民を、“食”を軸にゆるやかにつなぎ、だれもが安心して健康に暮らせるまちづくりを目指しています。

おしるこcafé

1月に新春特別企画として新春おしるこカフェを開催しました。
高たんぱく・低カロリー・糖質ひかえめのおしるこを販売し、みなさんに心も体もほっと温まる時間を過ごしていただきました。





レモンコラボ



宮地病院の庭で育ったレモンを使用した「レモンクッキー&レモネード」を販売しました。地域のパティシエとコラボレーションしたレモンクッキーは好評のうちに完売し、ホットレモネードも「体が温まる」と多くの方にお楽しみいただきました。また、カロリーゼロのレモネードもご用意し、健康にも配慮したメニューとして安心してご利用いただきました。地域とのつながりから実現した今回の企画を通じて、多くの交流が生まれる機会となりました。

けろっと食堂（こども食堂）

サービス付き高齢者住宅潮騒の家で毎月開催しているこども食堂「けろっと食堂」。栄養バランスの整った献立レシピを提供しています。





地域向け料理教室「親子deクックドチャレンジ」

2025年8月に地域の親子を招待して「親子deクックドチャレンジ」を開催しました。「火も包丁も使わずに子どもだけでも楽しめる」をコンセプトに、施設の管理栄養士監修のもと『練り切りづくり』にチャレンジしました。

当日は5組10名の親子が参加され、練り切りづくりから、粘土のように色や形を自分でデザインして皆さま思い思いのオリジナル練り切りを作っていました。食べるのが惜しいくらいの素敵な作品ができあがり、最後はお抹茶も立てて美味しくいただき、とても楽しい時間となりました。入所者様も覗きに来られて可愛い子どもたちにニッコニコでした。













地域とつながる輪

地域とのつながりは、安心して暮らせるまちづくりを支える大切な力です。明倫ヘルスケアグループでは、「地域とつながる輪」をテーマに、人と人との交流を大切にしながら、地域に寄り添った活動を行っています.

夏祭り

宮地病院

年に1度、地域の子どもや高齢の方を対象にした夏祭りを開催しています。300名を超える方々にお越しいただき、お菓子すくいやゲームコーナー等で楽しまれていました。子供たちの素敵な夏の思い出のひとつになっていればと思います。





看護の日

宮地病院

近代看護の礎を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、毎年5月12日は看護の日に制定されています。宮地病院では無料の健康チェックを行い、地域の皆さまにご自身の健康状態を見つめ直していただく機会づくりに取り組みました。







男カフェ





ポートアイランド集合住宅、港島ふれあいセンターにて毎月1回男カフェを実施。運動療法指導士の松井講師によるストレッチ、筋肉トレーニング、歩き方指導、介護予防啓発、茶話会で日ごろの悩みなど会話を楽しむ場とし閉じこもりを防ぐ。半数以上が男性で男性が継続して毎月参加しやすい場所です。

日　　時:毎月第1金曜日
参加人数:10名～15名
内　　容:ストレッチ、軽い筋トレ、正しい歩き方、姿勢、茶話会

マラソン大会　「芦屋さくらファンラン」

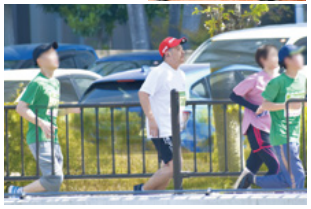
芦屋市で毎年開催される「芦屋さくらファンラン」に今年も愛しやからランナーとボランティアで参加しました。

愛しや特養の施設長は毎年参加しています。今年は愛しやスタッフのランニングチーム、その名も『NRT(なんちゃってランニングチーム)』を結成し、更には地域の子ども食堂のスタッフさんにデザインを依頼して作成したオリジナルTシャツを着用しました!

「愛しやさん今年も出てくれるのね!」「いつも手伝ってくれてありがとう!」という地域の皆さまの温かいお言葉に触れ、参加者は完走、警備担当もしっかりと仕事をして今年も楽しい一日となりました♪









地域祭参加　『芦屋浜夏祭り2025』

自治会からの出店依頼を受けて愛しや主体としては始めてのことでしたが色々な屋台がある中で考えた結果「冷やしパインソーダ屋」を出店しました。外国人介護職も参加して、材料の調達、ドライアイスや保冷の用意、料金設定などみんなで知恵を出し合って楽しく運営することができました。

当日は何百人もの来場、来店があり、「愛しやさん!」と声をかけてくださる方もたくさんいらっしゃって地域との繋がりを直に感じることができた素敵な時間となりました。







本山リハビリテーション病院

和・笑・輪カフェ

ひと月に一度、患者様と家族様がゆったりとお茶やお菓子を楽しみながら交流できる場として開催しています。和やかな雰囲気の中で会話が弾み、参加者同士のつながりや笑顔が広がる、心温まるひとときとなっています。

スタスタクラブ



退院後、歩行機能に不安や悩みを抱える患者様が、『もう一度しっかり歩きたい』『安心して外出したい』『健康を維持したい』といったそれぞれの思いを実現できるよう、一人一人のお悩みに寄り添いながら、住み慣れた地域で生き生きと過ごせる毎日を送るためのお手伝いをしたいという思いで開催しています。

おしゃべりカフェ

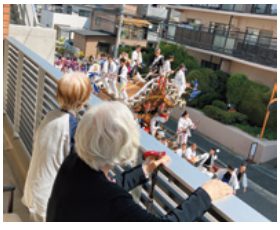
おしゃべりカフェは失語症者の社会参加を支援する会です。同じ不安や悩みを抱える参加者と家族様が交流をもつピアカウンセリングの場として開催しています。スタッフを交えながら近況を語り合い、日々の困りごとや工夫を共有することで、安心感や前向きな気持ちにつながる有意義な時間となっています。



青木だんじり

ゴールデンウィークの恒例行事「青木だんじり」が今年も開催され、当施設の前を大迫力のだんじりが巡行しました。

窓越しや沿道から見学されたみなさまは、お囃子の音色と迫力ある姿に大興奮!「やっぱりお祭りはいいねぇ」「元気がもらえるわ」と、初夏の楽しい思い出になりました。地域の皆さま、素敵な元気を届けていただきありがとうございました!




次世代の医療・介護人材を育む

持続可能な地域医療・介護体制の実現に向け、当法人では中学生の職業体験および各種実習生の受け入れを行っています。

次世代を担う人材育成は地域社会における重要な責務であり、現場での学びと交流を通じて、医療・介護分野への理解促進と将来の人材育成に貢献しています。

トライやる・ウィーク

宮地病院・本山リハビリテーション病院・介護老人保健施設あずさ









明倫会では、地域社会との連携を深める活動の一環として2025年度も近隣の中学校の生徒さんを対象としたトライやる・ウィークの受け入れを行いました。

今回のトライやる・ウィークでは、生徒の皆さまに医療現場の実際を体験していただくため、病棟での患者様のベッドのシーツ交換や薬剤科での調剤体験、リハビリテーション科での最新技術を用いたVR体験など、様々なプログラムをご用意しました。

初日は硬い表情を見せていた生徒の皆さまも、最終日には自然と柔らかい表情で患者様と触れ合う様子が見受けられました。

数日間ではありますが、医療現場での実体験が、個々の将来の選択肢を広げる一助となればと考えております。

実習生の声

甲南女子大学　PT学生

全身を使った実践的な介助や治療などを患者様に行い、学校ではできない貴重な経験をすることができました。患者様の病状を知るための評価やボディメカニクスなどをより深く理解することが出来ました。いろいろな先生のリハビリを見学する中で、アプローチの仕方にはさまざまな方法があることを学びました。また、適切な言葉を選びコミュニケーションの取り方に気をつけることで患者様との信頼関係を築けることを知りました。協同学習では他の学校の実習生と意見交換をすることで、新しい視点を得ることができました。今回の実習での経験をこれからの学びにしっかり活かしていきたいです。

大阪リハビリテーション専門学校　作業療法学科

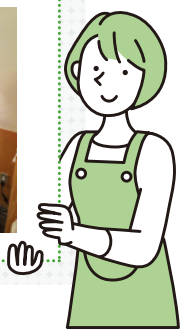
今回の実習では、患者様の評価・治療に携わらせていただき機能回復の段階的な過程やADL・IADLの再獲得に向けたアプローチについて学ぶことができました。また患者様の退院後の生活環境によっても介入方法が変わる為、患者様や家族様のニーズに応じて作業療法を行っていく必要があると実感しました。学校の授業では学ぶことができない患者様との関わり方や他職種連携、作業療法士としての考え方を学ぶことができ貴重な経験になりました。

神戸看護専門学校　看護学科

今回の実習では、利用者様との関わりを通じて「その人らしさ」を理解し、一人一人に適したコミュニケーションや支援方法を個別的に考える大切さを学びました。また、実際に自分自身でケアを実践することで、頭の中で考えていた「理想の援助」と、実際の現場での「実施の援助」との違いや難しさも身をもって体験することができました。施設で学んだことを今後の学業に活かし、将来、医療を必要とする方々の心に優しく寄り添える看護師になれるよう、これからも一歩一歩励んでまいります。











保育園紹介

キッズルームころねん

神戸市認可保育園キッズルームころねんを支えていただきありがとうございます。
アネックスMでのころねんの1年を振り返ってみました。

2階 ころねん保育室





広々とした保育室で各コーナーに分かれて遊んでいます。
窓から入る光で保育室の室内はとても明るいです。
0歳児の部屋は畳もありゆったりとした雰囲気でくつろげます。

3階 ポラリスホール





広々としたホーで足蹴り乗用玩具に乗ってぐるぐる走ったり、コーナーや直線をかけっこしたり、遊具を使って運動遊びを楽しんでいます。

地下1階 テラス



地下1階にはテラスがあり、夏の時期水遊びやシャボン玉、水を使ったお祭りごっこなど夏ならではの遊びを楽しんでいます。

3歳児受け入れ連携施設



ころねんは2歳児までの保育園なので3歳児の受け入れをお願いしている連携施設があります。
ブルーノの森　ザ･ブルーノ　アイテラス　あおい宙の4カ所の保育園に受け入 れていただいています。
またブルーノの森･ザ　ブルーノ保育園はハロウィンやクリスマス会のイベントにもお誘いいただきます。



イベント親子の集い

親子の集いでは普段お子さまが保育園で過ごしている活動を一緒に体験していただく企画です。保育園でのお子さまの活動を親子で楽しんでいただき保護者の皆さまとの交流の機会でもあります。







おれんじたっち･つくし交流

おれんじたっちは月1回の地域の方がころねんに訪問、つくしは子どもたちが訪問してそれぞれ楽しい時間を過ごしています。



栄養課とのミールラウンド

毎月病院の栄養課の皆さまが保育園の食事の様子を見に来て下さりこども達との交流の時間を過ごしています。





地域交流

トライやるは毎年本山南中学校の学生さんを受け入れ、親子のゆるヨガは毎月ためまっぷに連載しています。

職員のために

女性の効果的な社会参画及び平等なリーダーシップの機会を確保します。高齢者・障害者を含む全ての男女の雇用及び働きがいのある労働環境を達成します。

職員の力が活きる職場へ

私たちは、職員の健康と働きやすさを重要な経営課題の一つと位置付けています。健康経営の推進に加え、多様なライフステージに応じた支援や職場環境の整備を進めることで、誰もが安心して活躍できる組織づくりに取り組んでいます。職員一人一人が持てる力を発揮することで、利用者様や地域の皆さまへ質の高い医療・福祉サービスを提供し続けてまいります。

KENZO会議とは

KENZO会議では、健康診断やストレスチェックの集団分析結果等から見える職員の健康課題や職場環境に関する課題を共有・分析し、改善に向けた施策を検討しています。職員が主体的に参加できる健康増進施策の企画・実施を通じて、健康で働きやすい職場づくりを進めています。

2025年度の具体的な施策
- 熱中症対策として塩分タブレットの設置
- 階段にスローガンの設置
- 研修の企画





健康経営への取り組み

医療法人明倫会では、2021年より職員の健康増進のための取り組みを開始し、2022年から5年連続で「健康経営優良法人」の認定を受けています。

2026 健康経営優良法人 KENKO Investment for Health 大規模法人部門

推進方針

(健康宣言)

明倫ヘルスケアグループは、WE ARE ONE の理念のもと、信頼される医療・福祉サービスを提供し、地域と共に成長し続けるために、職員一人一人が心身ともに健康で自分らしく働くことができる環境づくりを目指します。

医療法人明倫会は、協会けんぽが実施する「わが社の健康宣言」事業に参加しています。

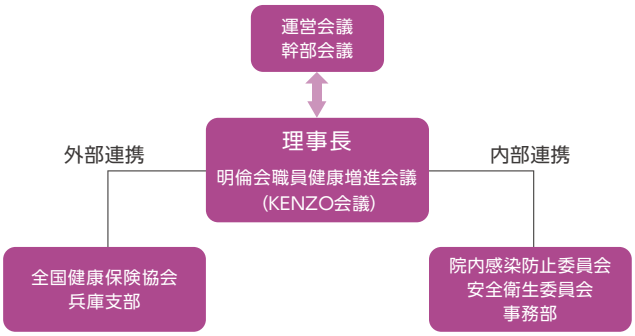
健康経営の目標

1. 適正な労働時間の管理や労働災害防止の対策強化により、心身の健康を害する要素をできる限り取り除き、安心して働ける環境をつくる。
2. ワークライフバランスの実現、女性活躍、子育て支援における各種取り組みを推進し、年齢性別を問わず仕事と家庭を両立できる環境をつくる。
3. 医療費補助や運動環境の提供などの福利厚生のさらなる充実をはかり、職員の健康を維持する。

推進体制

理事長をトップとして、「明倫会職員健康増進会議(KENZO)」にて健康経営諸施策の推進に取り組んでいます。また各部署の管理者が出席する代表者会議・幹部会議と連携し、職員の健康増進に関する課題・施策について協議しています。





推進目的

医療・福祉業界での慢性的な人出不足は今後もより一層深刻化する課題であり、職員の長期就業継続が可能な職場環境であることはとても重要です。そのような職場環境づくりには、健康増進のための組織的な取り組みにより健康文化を形成し職員一人一人の生活の充実を図るとともに、職員の活力や生産性を向上させることが必要であると考えています。

わたしたちは様々な取り組みや支援を通じて、職員が心身共にいきいきと長く働き続けられることを期待し、理念の共有や技術・ノウハウの蓄積を通じたサービス品質の向上を目指します。

数値目標

入職3年後の就業継続率	75%以上
育休復帰後の3年就業継続率	80%以上
健康診断における有所見者率	15%以下

健康課題

健診後精密検査受診率の向上

目標値100%

(2020年度:24.4%→2024年度:61.6%)

具体的な取り組み

- 健診後有所見者全員への精密検査受診呼びかけと受診確認
- 自院での治療者に対しては医療費補助
- 健診結果に係る研修の実施
- 研修の実施(メンタルヘルス/体重管理・コレステロール/女性特有健康課題/肩こり・腰痛など)
  法人内の専門職(医師・看護師・管理栄養士)によるオリジナル研修を一部導入。
  健診結果から職員の全体的な健康課題を抽出し、年度はじめに内容を決定しています。

指　標



パフォーマンス指標(2024年度)		
	アブセンティーズム	6.2%(測定人数565名)
	プレゼンティーズム	47.0%(測定人数234名・回答率52.9%)
	ワークエンゲージメント	3.1点(測定人数234名・回答率52.9%)

パフォーマンス指標(2025年度)	
アブセンティーズム	8.4%
プレゼンティーズム	16.6%
ワークエンゲージメント	2.6点

※アブセンティーズム:全職員の4日以上欠勤者割合を集計
※プレゼンティーズム:SPQ東大1項目版(病気やけががないときに発揮できる仕事の出来を100%として過去4週間の自身の仕事を評価した際の平均損失率。)
※ワークエンゲージメント:新職業性ストレス簡易調査票の「仕事をしていると活力がみなぎるように感じる」「自分の仕事に誇りを感じる」2問の平均点(4点満点)

職員の力が活きる職場へ

職員が安心して長く働ける環境づくりは、明倫ヘルスケアグループとして大切にしている取り組みの一つです。育児や介護との両立支援、柔軟な勤務体制の整備、休暇取得の推進などを継続的に進めてきた結果、“えるぼし認定”“くるみん認定”をはじめとした複数の認定取得につながっています。

これらの認定は、職場環境や働きやすさに関する取り組みが第三者機関から客観的に評価され、形として可視化されたものでもあります。

えるぼし認定



明倫ヘルスケアグループでは、女性職員が多く活躍する医療・介護の現場において、安心して働き続けられる環境整備を進めています。

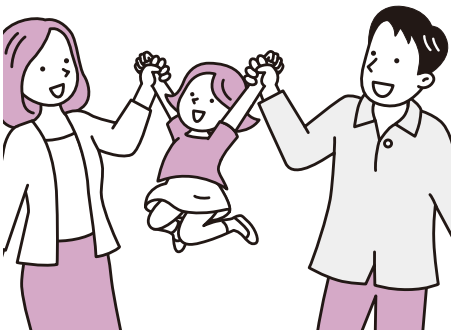
有給休暇取得の推進や長時間労働の是正に加え、キャリア形成支援や管理職登用の推進など、一人一人がライフステージに応じて能力を発揮できる職場づくりに取り組んでいます。

また、育児との両立を支援するため、小学6年生まで利用可能な短時間勤務制度を整備するなど、柔軟な働き方を支える体制づくりも進めています。

こうした取り組みが評価され、女性活躍推進法に基づく「えるぼし認定」を取得しています。



くるみん認定



明倫ヘルスケアグループでは、育児や介護と仕事を両立しながら安心して働き続けられるよう、各種支援制度や柔軟な勤務体制の整備を進めています。

育児休業からの復職支援に加え、法定を上回る看護休暇・介護休暇制度を整備し、職員一人一人の状況に応じた働き方を支援しています。

また、制度を整えるだけでなく、安心して利用できる職場風土づくりにも取り組み、多様な働き方を支える環境整備につなげています。



産前産後休暇・育児休業・復職実績

医療法人明倫会

産休・育休取得	11名
復　　帰	11名

介護老人福祉施設ぽー愛

産休・育休取得	2名
復　　帰	1名

介護老人保健施設愛しや

産休・育休取得	1名
復　　帰	4名

医療DXの深化と発展

医療業界における人材不足や業務負担の増加が課題となる中、当法人では医療DXの深化と発展に積極的に取り組んでいます。電子カルテにおけるAI活用や音声入力の導入などを進め、職員が実際の現場で使いこなせる環境づくりを推進してきました。導入当初から職員教育や運用定着にも注力し、現在では現場での活用が着実に広がっています。こうした取り組みは、業務効率化だけでなく医療の質向上や働きやすい職場環境の実現にも寄与しています。

電子カルテにAI・RPAを導入

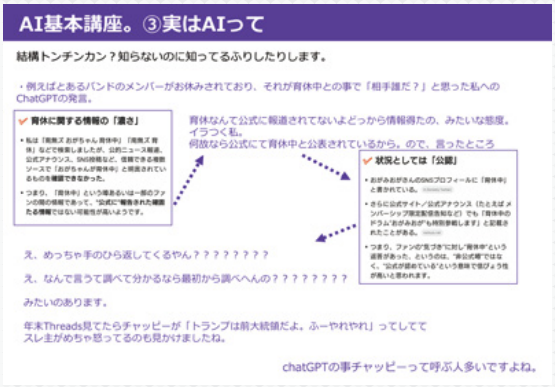
電子カルテ(閉域網)へのPPA導入

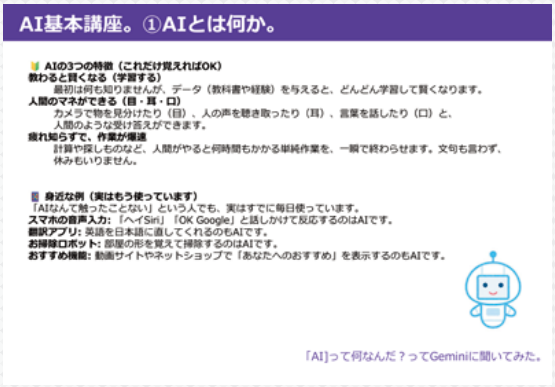
翌日予約されている患者様の一覧を出力し、その患者様が最新でいつ、MRIなどの検査を受けたのかを一覧にするRPAを作成しました。これにより、過去のデータを遡らずともすぐ紙媒体で検査状況が確認できるため、必要な患者様に検査を提案できるようになりました。

また、SSIの電子カルテにAIも導入され、サマリーの作成・音声データを録音することが出来、その録音データから議事録作成なども可能となりました。退院時カンファレンスの議事録作成は今までかなり大変だったため、かなりの業務効率化となっています。

職員教育～AI通知の回覧

現状、AI等に拒否感を持たれる職員がとても多いです。また、AIを完璧だと思っている職員も多く存在します。そんな中、AIは完ぺきではない、でも頼れる存在である事、こんな風に利用すればこんな効率化がはかれますよ、と職員にAIに興味を抱き、拒否感をなくしてもらうために、ちょっと笑える話も交えながらAI通知を回覧しております。





DXブレークスルー会議・推しDXラボ

DXブレークスルー会議とは、長英一郎先生を講師としてお迎えし、月に1度開催している会議となります。最新のAIの動きを講義していただき、流れの速いAIの進歩に置いて行かれない様、幹部メンバーで勉強しております。また、幹部が部署が抱える悩みを洗い出し、それを相談する時間を持つことで、業務効率化にDX・AIが役立たないかと検討しております。

推しDXラボは職員なら誰でも参加できる有志の会です。DXブレークスルーで得た情報や、職員が困っているだろうことを議題にし、こんな風に簡単に解決できますよと言った紹介をする場として開催しております。

▼DXブレークスルー会議⇒部署長が部の為に業務相談を行う幹部会議
▼推しDXラボ⇒職員個人個人が自分を高めるために勉強をする場
どちらも、業務効率化の為に欠かせない存在です。

明倫ヘルスケアグループの

スーパー★スター Super Star

明倫ヘルスケアグループには、職員一人一人が現場の中心となって活躍しています。
その中でも特に高い信頼を集め、ひときわ輝く“スーパースター”をご紹介！その人柄や仕事への想いについて、お話してもらいます。

高齢者医療の中で学んだこと -薬だけでなく、その人の生活を見る-

薬剤師は患者様の薬を調剤・交付し、その薬について指導するのが主な仕事です。医薬品の品質や安全性を科学的根拠に基づき客観的に評価し、安全な薬物療法を患者様に提供することが目的です。

急性期病院からケアミックス型の宮地病院に転職した当初は、戸惑うことが多かったです。患者層は若年者から高齢者に変化し、高齢者のなかには認知機能が低下している方もいます。「はい、分かりました。どうもありがとう。」と指導後に笑顔で応えてくれた患者様が、翌日になると「知らない。薬のことは何も聞いてない。」と服薬していないこともありました。今思えば、高齢の方への配慮が不十分だったと思います。

また、高齢者は一般的に若年者に比べて生理機能が低下しています。薬の使い方も成人を基準とした診療ガイドライン通りではなく、通常の用法用量とは異なることがあります。さらには、患者背景も影響してきます。例えば、サポートする家族が近くにいない場合、1日2回朝夕食後の薬が1日1回昼食後になっていることがあります。これは、デイサービス利用時に確実に服薬してもらうための工夫です。そこには医師の葛藤と患者様への配慮を感じます。勤務を続ける中で、少しずつ理解できる様になりました。

他職種のスタッフも、患者様のQOL向上を目指し奮闘しており、その姿に感銘を受けました。私も既存概念にとらわれず、柔軟な視点で物事を捉え、患者様一人一人に適した薬物療法を提供できるよう努めていきたいです。



すぎの　なおみ
杉野　直美
医療法人明倫会宮地病院
薬剤師
2020年入職

「世界一のリハビリ」を目指して走り続ける

実は元々、大阪のグラフィックデザイン専門学校に通っていました。この仕事を目指したきっかけは、学生時代にバイクで事故に遭い、自分自身がリハビリを経験したことです。当院を選んだのは、反復性経頭蓋磁気刺激（rTMS）をはじめリハビリに力を入れている環境に魅力を感じたからで、今でも充実した施設だと感じています。

普段は回復期病棟での臨床を中心に、若手教育や磁気刺激を使った研究など幅広く携わっています。なかでも物理療法や福祉用具の選定は得意分野です。道具ひとつで生活が変わる瞬間を何度も見てきたからこそ、妥協したくない。福祉用具プランナーや車いす安全整備士の資格を取ったのも、その想いからです。



いもと　ひろふみ
井本　浩史
医療法人明倫会本山
リハビリテーション病院
リハビリテーション科
作業療法士（認定）、
福祉用具プランナー、
車いす安全整備士
2014年 入職

大切にしているのは、その方や家族様の価値観や生き方を尊重し、「その人らしさ」を見つめること。患者様に「世界一のリハビリだった」と思ってもらえるよう、根拠に基づいた実践に最新の知見を取り入れ続けています。

今年から大学院にも通い始めました。脳卒中後の排尿障害をテーマに研究を進めており、研究で得た知見を現場に還元し、患者様のために役立てたいと考えています。また、昨年からリハビリアウトカムのデータベース作成チームを立ち上げました。病院と患者様の双方に有益な統計データを示せる仕組みをつくっていきたいと思っています。

休日は2歳の子どもと過ごす時間が一番の癒しです。趣味はトライアスロンで、ケアンズのアイアンマンレースを完走したこともあります。今年は大阪城トライアスロンにエントリー中です。興味がある方、ぜひ声をかけてください!

臨床でも、研究でも、スポーツでも――ひたむきに走り続けたいと思います。これからもよろしくお願いします。

「運動」をもっと身近なものに -チームで支える、元気なからだづくり-



岡永（おかなが） 幸平（こうへい）
介護老人保健施設
あずさ
健康運動指導士
2018年入職

大学の授業で「運動処方」を学び、生活習慣病の改善や高齢者の体力強化など、個々に合わせた運動メニューで健康増進に関われることを知りました。座学だけでなく、実際に地域の方々を対象とした体力測定を実施し、その結果を基に学生が運動メニューを作成して、週に1回大学で一緒に運動を行ってもらう経験をしました。この体験を通して、運動が嫌いな方や体を動かすのが苦手な方たちとも出会いました。しかし、運動を継続して体力測定の結果が向上した方や、楽しそうに体を動かしている姿を見るうちに、一人一人に寄り添って運動を支える意義を強く実感し、健康運動指導士を目指すようになりました。

前職では、循環器内科の心臓リハビリテーション科で運動指導をしていました。そこでは、患者様も含めた多職種が連携することでより高い効果が生まれることを学び、チームの一員としてどのように関わるかが重要であると実感しました。

現在は、老健あずさ「にこにこデイケア」にて、ストレッチや自重による筋トレの集団指導とマシンを使用した個別指導を担当しています。デイケアでは、介護・看護・リハビリのスタッフがそれぞれの専門性を活かし、利用者様により良いサービスを提供できるよう取り組んでいます。私も、利用者様にとって運動が少しでも身近なものとなり、健康寿命を延ばすための「ちょっとした運動や動作」が習慣になるよう、それぞれに合った指導を通じて、皆さまをサポートしていきます。その取り組みを通じて、「にこにこデイケア」チームの一員として力になれたら嬉しいです。

寄り添う気持ちは、今も変わらない -80歳まで笑顔で-



撰（えらぶ） ツネ子（つねこ）
高齢者総合福祉施設
愛しや
看護師
2012年入職

私は以前、宮地病院で約20年間勤務していました。やりがいのある毎日でしたが、年齢を重ねるにつれて現場の体力的な負担が大きくなり、施設での勤務を勧めていただいたことが転機となりました。最初は不安もありましたが、今ではこの職場に出会えたことを本当にありがたく思っています。

ここはとても働きやすく、何よりチームワークが良い職場です。看護職だけでなく介護職の皆さまとも連携しながら、利用者様にとってより満足度の高いケアを一緒に考え、提供できることに大きなやりがいを感じています。毎日が楽しく、「今日もここで働けてよかった」と思える職場です。

また、高齢になっても働き続けられる環境があることは、私にとって大きな喜びです。利用者様が年齢を重ね、老いていく姿を見守る中で、自分自身のこれからを重ね合わせることもあります。だからこそ、その方らしさに寄り添い、今できる精一杯のケアを届けたいという思いで日々働いています。

私が看護師を志した原点は、高校生の頃に読んだクリミア戦争に関する本でした。そこに描かれていたナイチンゲールの精神に心を動かされ、「病んでいる人に寄り添い、精一杯尽くしたい」と強く思ったことを今でも覚えています。その気持ちは今も変わりません。元気でいられる間は、80歳までででも働かせていただきたい。余生を楽しみながら、自分の力の限り、人のために働き続けたいと思っています。

母として、介護職として -笑顔に支えられて17年-

私は17年前に介護職として入職し、これまでに3度の産休・育休を取得しました。そのたびに職場の理解や家族の支えに助けられながら復帰し、現在は特養で勤務しています。

産休から復帰した初日、利用者様から「赤ちゃんも一緒に来たん?」と真剣に尋ねられ職員一同大笑い。「今日はお留守番です」と答えると、「次は連れておいで」と温かい言葉をいただき、笑顔あふれる再スタートとなりました。

日々の業務では、利用者様の生活支援を中心に、食事や入浴の介助、レクリエーションのサポートなどを行っています。私が特に大切にしているのは、利用者様とのコミュニケーションです。一人一人の思いや希望に耳を傾け、その方らしい生活を支援できるよう心掛けています。

職場は職員同士の連携が良く、困ったときには相談し合える温かい環境です。子育てと仕事の両立は決して簡単ではありませんが、周囲の理解と協力のおかげで働き続けることができています。また、復帰後は限られた時間の中で効率よく業務を進める工夫を重ね、新人職員への指導やチーム内での情報共有にも積極的に取り組んでいます。

利用者様の笑顔や「ありがとう」の言葉は、私にとって何よりの励みです。介護の仕事は責任も大きく大変なこともありますが、人の役に立てる喜びや人生に寄り添えるやりがいを日々感じています。

これからも17年間で培った経験と、母親としての視点を活かしながら、利用者様一人一人に寄り添った丁寧なケアを実践していきたいと思います。そして、学び続ける姿勢を忘れず、利用者様が安心して笑顔で過ごせる環境づくりに努めてまいります。



居内（いうち） 恵梨（えり）
明倫福祉会介護老人福祉施設
ぽー愛
介護職
2009年入職

記事掲載・研究発表・院外研修

記事掲載

放送/掲載年月日	メディア名	テーマ
R7.4	小学生のためのお仕事ノート(神戸市版)	
R7.9	日本栄養士会雑誌	神戸市東灘区在宅NST推進研究会による食支援活動および地域一体型NSTへの取り組み
R7.12	当院内科病棟における経管栄養患者数と季節性の関連	当院内科病棟における経管栄養患者数と季節性の関連

研究発表

宮地病院

開催年月日	大会名	主催	発表テーマ	発表者
R7.8.30	第20回研究発表会	一社)兵庫県全日本病院協会 一社)兵庫県民間病院協会	リハビリテーション科の物品管理の改善活動 ～物品チェックの作業時間の短縮化への取り組み～	浪花 久美
R7.10.11-12	第66回全日本病院学会in北海道	第66回全日本病院学会 in北海道運営事務局	リハビリテーション科の物品管理の改善活動 ～物品チェックの作業時間の短縮化への取り組み～	浪花 久美
R7.11.7	第33回日本慢性期医療学会	一般社団法人日本慢性期医療協会	看護補助者ラダー導入による人材育成	上田 知加

本山リハビリテーション病院

開催年月日	大会名	主催	発表テーマ	発表者
R7.6.27-28	第26回日本言語聴覚学会　in 山形	日本言語聴覚士協会	言語聴覚士には人と社会を変える力がある ～なせばなる なさねばならぬ何事も 共生の時代へのSTep～	保井 菜緑
R7.8.30	第20回研究発表会	一社)兵庫県全日本病院協会 一社)兵庫県民間病院協会	栄養管理の見直しにより リハビリテーション栄養を考慮した多職種連携の取り組み	吉川 翔基
R7.10.11-12	第66回全日本病院学会in北海道	第66回全日本病院学会 in北海道運営事務局	栄養管理の見直しにより リハビリテーション栄養を考慮した多職種連携の取り組み	吉川 翔基
R7.11.7-9	第59回日本作業療法学会	日本作業療法協会	作業療法の価値を高めるエビデンスの創出	井本 浩史
R7.12.11	第3回セラピストマネジメント研究会	回復期リハビリテーション病棟協会	PT　OT　STによりマネジメントに関する活動報告や研究発表	宮村 明歩
R8.2.23	第2回兵庫県言語聴覚学会	兵庫県言語聴覚士学会	診断後13年を経過した進行性疾患の嚥下障害に対して反復末梢磁気刺激治療が有効であった一例	平山 芽生
R8.2.28	第23回　神戸市東灘区医師会 病診連携学術集談会	神戸市東灘区医師会	「ユマニチュードのブロンズ認証取得に向けた取り組み」	大西 由香

介護老人福祉施設ぽーー愛

開催年月日	大会名	主催	発表テーマ	発表者
R6.9.28	全日病院学会in京都	全日本病院協会	生活歴シートの充実と活用を目指した取り組み	西後・中西
R6.8.24	第19回研究発表会	兵庫県民間病院協会	生活歴シートの充実と活用を目指した取り組み	西後・中西

院外研修　参加データ

宮地病院
年間 117 回　参加延人数 147人／従業員数 232人

本山リハビリテーション病院
年間 88 回　参加延人数 131人／従業員数 209人

介護老人保健施設あずさ
年間 49 回　参加延人数 73人／従業員数 85人

介護老人福祉施設ぽーー愛
年間 10 回　参加延人数 10人／従業員数 107人

高齢者総合福祉施設愛(あ)しや
年間 127 回　参加延人数 145人／従業員数 243人

統　計　STATISTICS

宮地病院

外来患者数

(人)

		月平均	合計
R5 年度	内科	1,650	19,802
	整形外科	624	7,487
	精神	978	11,739
	リハビリテーション科	849	10,189
	合　計	4,101	49,217
R6 年度	内科	1,613	19,360
	整形外科	575	6,899
	精神	888	10,654
	リハビリテーション科	7	87
	合　計	3,083	37,000
R7 年度	内科	1,529	18,348
	整形外科	541	6,486
	精神	1,132	13,582
	リハビリテーション科	5	60
	合　計	3207	38476

入院延患者数

(人)

		月平均	合計
R5 年度	内科	2,200	26,400
	整形外科	335	4,018
	合　計	2,535	30,418
R6 年度	内科	2,203	26,430
	整形外科	370	4,443
	合　計	2,573	30,873
R7 年度	内科	2,155	25,855
	整形外科	4,13	4,958
	合　計	2,568	30,813

退院先

(人)

		月平均	合計
R5 年度	自　宅	20	245
	転　院	10	117
	施　設	16	193
	死　亡	12	139
	合　計	58	694
R6 年度	自　宅	23	277
	転　院	10	121
	施　設	14	163
	死　亡	10	128
	合　計	57	689
R7 年度	自　宅	24.1	289
	転　院	13.4	161
	施　設	16.6	199
	死　亡	9.3	111
	合　計	63.4	760

病床利用率

(%)

		合計
R5 年度	一般病棟	93.7
	療養病棟	97.8
	地域包括ケア病棟	78.0
R6 年度	一般病棟	95.3
	療養病棟	99.1
	地域包括ケア病棟	83.5
R7 年度	一般病棟	94.3
	療養病棟	99.0
	地域包括ケア病棟	84.2

平均在院日数

(日)

		合計
R5 年度	一般病棟	19.02
	療養病棟	142.59
	地域包括ケア病棟	19.64
R6 年度	一般病棟	19.06
	療養病棟	150.93
	地域包括ケア病棟	17.92
R7 年度	一般病棟	18.27
	療養病棟	147.98
	地域包括ケア病棟	15.55

救急搬送受け入れ(件)

	合計
R5 年度	431
R6 年度	457
R7 年度	502

手術件数

(件)

	合計
R5 年度	65
R6 年度	105
R7 年度	161

転倒転落率

(%)

	月平均
R5 年度	3.56
R6 年度	2.88
R7 年度	2.54

身体的拘束率

(%)

		月平均
R6 年度	一般病棟・地域包括ケア病棟	5.4
	療養病棟	6.7
R7 年度	一般病棟・地域包括ケア病棟	3.4
	療養病棟	4.2

リハビリテーション件数〈入院〉

(件)

		月平均	合計
R5 年度	脳血管疾患等	3,346	40,157
	運動器	1,376	16,509
	呼吸器	1,011	12,126
	合　計	5,733	68,792
R6 年度	脳血管疾患等	2,941	35,290
	運動器	1,489	17,862
	呼吸器	1,083	12,999
	合　計	5,513	66,151
R7 年度	脳血管疾患等	2,158	25,890
	運動器	1,757	21,089
	呼吸器	1,265	15,177
	合　計	5,180	62,156

褥瘡発生率

(%)

		月平均
R5 年度	2 階病棟	0.07
	3 階病棟	0.01
R6 年度	2 階病棟	0.06
	3 階病棟	0.01
R7 年度	2 階病棟	0.01
	3 階病棟	0.01

在宅診療延回数・件数

(件)

		月平均	合計
R5 年度	延回数	129	1,544
	件数	62	749
R6 年度	延回数	119	1,425
	件数	60	717
R7 年度	延回数	118	1,420
	件数	59	712

通所リハビリリハスタジオM回数・件数

(件)

		月平均	合計
R5 年度	延件数	1,135	13,617
	件数	210	2,520
R6 年度	延件数	1,175	14,104
	件数	220	2,644
R7 年度	延件数	1,219	14,626
	件数	226	2,707

リハビリテーション件数〈外来〉

(件)

		月平均	合計
R5 年度	脳血管疾患等	683	8,192
	運動器	481	5,776
	合　計	1,164	13,968
R6 年度	脳血管疾患等	693	8,317
	運動器	390	4,677
	合　計	1,083	12,994
R7 年度	脳血管疾患等	616	7,395
	運動器	322	3,868
	合　計	938	11,263

在宅復帰率

(%)

		月平均
R5 年度	地域包括ケア	94.64
	療養	83.33
R6 年度	地域包括ケア	89.31
	療養	82.61
R7 年度	地域包括ケア	86.08
	療養	75

疾患別　平均在院日数〈整形外科〉

(日)

	月平均
大腿骨骨折	25.7
腰椎および骨盤の骨折	19.4
肋骨・胸骨および胸椎骨折	21.1
脊柱管狭窄症	12

疾患別　平均在院日数〈内科〉

(日)

	月平均
肺炎	48
脳梗塞後遺症	172.3
心不全	28.6
糖尿病	73.5
大腸ポリープ	1.8

重度認知症デイケアつくし延回数・件数

(件)

		月平均	合計
R5 年度	延回数	927	11,120
	件数	76	907
R6 年度	延回数	964	11,563
	件数	86	1,036
R7 年度	延回数	1,044	12,522
	件数	100	1,199

在宅部門

訪問ヘルパー訪問延回数・件数

(件)

		月平均	合計
R5 年度	延回数	844	10,128
	件数	77	918
R6 年度	延回数	994	11,922
	件数	92	1,102
R7 年度	延回数	1,066	12,793
	件数	99	1,184

訪問看護センター訪問回数・件数

(件)

		月平均	合計
R5 年度	延回数	379	4,547
	件数	102	1,220
R6 年度	延回数	393	4,711
	件数	100	1,200
R7 年度	延回数	405	4,865
	件数	107	1,289

訪問リハビリ訪問延回数・件数

(件)

		月平均	合計
R5 年度	延回数	545	6540
	件数	51	607
R6 年度	延回数	461	5,534
	件数	42	509
R7 年度	延回数	404	4,852
	件数	40	478

居宅ケアプラン作成件数

(件)

		月平均	合計
R5 年度	延件数	213	2,552
R6 年度	延件数	206	2,469
R7 年度	延件数	179	2,152

包括ケアプラン(介護予防)作成件数

(件)

		月平均	合計
R5 年度	延件数	261	3,135
R6 年度	延件数	250	2,994
R7 年度	延件数	251	3,006

本山リハビリテーション病院

外来患者数

(人)

		月平均	合計
R5 年度	内科	2	21
	リハビリテーション科	8	100
	合　計	10	121
R6 年度	内科	2	26
	リハビリテーション科	5	58
	合　計	7	84
R7 年度	内科	2	25
	リハビリテーション科	5	62
	合　計	7	87

入院延患者数

(人)

		月平均	合計
R5 年度	内科	491	5,897
	リハビリテーション科	3,002	36,023
	合　計	3,493	41,920
R6 年度	内科	666	7,994
	リハビリテーション科	2,926	35,116
	合　計	3,592	43,110
R7 年度	内科	594	7,122
	リハビリテーション科	3,040	36,477
	合　計	3,634	43,599

FIM 改善率

(件)

		月平均
2 階病棟	入院時	65.45
	退院時	89.91
	点数差	24.45
	改善率（%）	37.47%
3 階病棟	入院時	63.74
	退院時	90.27
	点数差	26.53
	改善率（%）	41.83%
4 階病棟	入院時	75.54
	退院時	83.08
	点数差	7.53
	改善率（%）	9.94%

転倒・転落率

(%)

	月平均
R5 年度	4.06
R6 年度	4.91
R7 年度	3.90

在宅復帰率

(%)

	月平均
R5 年度	92.2
R6 年度	87.7
R7 年度	88.5

平均在院日数

(日)

		月平均
R5 年度	障害者病棟	98.3
	回復期リハ病棟	66.3
R6 年度	障害者病棟	77.1
	回復期リハ病棟	66.0
R7 年度	障害者病棟	75.9
	回復期リハ病棟	66.1

病床利用率

(%)

		月平均
R5 年度	障害者病棟	91.4
	回復期リハ病棟	97.5
R6 年度	障害者病棟	97.8
	回復期リハ病棟	98.8
R7 年度	障害者病棟	99.5
	回復期リハ病棟	99.6

退院患者別　疾患別平均在院日数

(日)

		月平均
内科	大腿骨骨折の術後後遺症	35.3
	脳血管疾患の続発・後遺症	0.0
	神経疾患	67.9
	脳血管疾患	48.4
	胸・腰椎骨折	20.8
リハビリ科	脳血管疾患の続発後遺症	82.5
	脳血管疾患	77.2
	神経疾患	83.5
	大腿骨骨折の術後後遺症等	57.5
	胸・腰椎骨折	63.3

リハビリテーション件数〈入院〉

(件)

	月平均	合計
脳血管疾患等	17,227	206,729
廃用	908	10,898
運動器	7,083	84,992
合　計	25,218	302,619

退院先

(人)

	月平均	合計
自宅	32.9	395
転院	4.3	52
施設	9.3	112
その他	0.6	7
合　計	47.2	566

あずさ

入所・短期延数 (件)

	合計	月平均
R5 年度	17,061	1421.8
R6 年度	26,038	2169.8
R7 年度	32,914	2742.8

稼動率 (%)

	月平均
R5 年度	89.6
R6 年度	90.5
R7 年度	96.5

平均在所日数 (日)

	月平均
R5 年度	246.0
R6 年度	195.6
R7 年度	234.7

在宅復帰率 (%)

	月平均
R5 年度	49.8
R6 年度	44.8
R7 年度	53.3

ベッド回転率 (%)

	月平均
R5 年度	14.1
R6 年度	16.3
R7 年度	13.1

デイケア　月間利用者数 (人)

	合計	月平均
R5 年度	9414	784.5
R6 年度	11594	966.2
R7 年度	13947	1162.3

デイケア　1日平均利用者数 (人)

	合計	月平均
R5 年度	365	30.4
R6 年度	450	37.5
R7 年度	541	45.1

ぽー愛

利用者延数 (人)

	合計	月平均
R5 年度	17,546	1,462
R6 年度	16,880	1,407
R7 年度	17,325	1,444

稼働率 (%)

	月平均
R5 年度	94.8
R6 年度	94.2
R7 年度	95.5

短期生活介護　利用者延数 (人)

	合計	月平均
R5 年度	8,689	724.1
R6 年度	8,493	707.8
R7 年度	8,534	711.2

短期生活介護　稼働率 (%)

	月平均
R5 年度	118
R6 年度	118
R7 年度	111

通所介護　利用者延数 (人)

	合計	月平均
R5 年度	11,977	998.1
R6 年度	10,344	862.0
R7 年度	10,610	884.2

通所介護　1日平均利用人数 (人)

	月平均
R5 年度	38.7
R6 年度	33.9
R7 年度	34.7

居宅介護支援事業所　利用者実数 (人)

	合計	月平均
R5 年度	1,308	109.0
R6 年度	1,057	88.1
R7 年度	1,131	94.3

三宮ケアプランセンター　利用者実数(人)

	合計	月平均
R5 年度	1,929	160.8
R6 年度	1,989	166.1
R7 年度	1,876	156.3

ヘルパーステーションさんぷら　利用者実数(人)

	合計	月平均
R5 年度	587	48.9
R6 年度	907	76.2
R7 年度	1,215	101.4

愛しや

介護老人福祉施設愛しや利用者延数 (人)

	合計	月平均
R5 年度	26,600	2,217
R6 年度	26,754	2,230
R7 年度	26,841	2,237

介護老人福祉施設愛しや稼働率 (%)

	月平均
R5 年度	91
R6 年度	92
R7 年度	92

愛しや　短期入所生活介護利用者延数 (人)

	合計	月平均
R5 年度	10,519	876.6
R6 年度	9,821	818.4
R7 年度	10,593	882.8

愛しや　短期入所生活介護稼働率 (%)

	月平均
R5 年度	149
R6 年度	139
R7 年度	144

愛しや　居宅介護支援事業所利用者実績 (人)

	合計	月平均
R5 年度	2,173	181.1
R6 年度	2,506	208.8
R7 年度	2,759	229.9

ヘルパーステーションあしや利用者実績 (人)

	合計	月平均
R5 年度	1,823	151.9
R6 年度	1,958	163.2
R7 年度	2,222	185.2

介護老人保健施設愛しや利用者延数 (人)

	合計	月平均
R5 年度	27,998	2,333
R6 年度	25,641	2,137
R7 年度	26,783	2,232

介護老人保健施設愛しや稼働率 (%)

	月平均
R5 年度	96
R6 年度	92
R7 年度	96

愛しや　通所リハビリテーション利用者延数(人)

	合計	月平均
R5 年度	12,739	1,061.6
R6 年度	13,134	1,094.5
R7 年度	13,332	1,111.0

愛しや　通所リハビリテーション1日平均利用人数 (人)

	月平均
R5 年度	41.2
R6 年度	42.3
R7 年度	43.2

愛しや　訪問リハビリテーション利用者実績(人)

	合計	月平均
R5 年度	2,117	176.4
R6 年度	2,587	215.6
R7 年度	3,046	253.8

愛しや　短期入所療養介護利用者延数 (人)

	合計	月平均
R5 年度	1,211	100.9
R6 年度	1,165	97.1
R7 年度	868	72.3

明倫ヘルスケアグループのあゆみ

1954年 1月		宮地知男　甲南診療所開設
1959年		有床診療所（19床）
1962年 5月	宮地病院	宮地病院開設（64床）
1967年	宮地病院	看護婦宿舎「梓寮」設立
1970年	宮地病院	新館（西側）増設（156床）
1979年	宮地病院	医療法人明倫会設立
1989年	宮地病院	新館（東側）増設　全館改築（200床）
1992年 12月	在宅部門	医療法人明倫会　訪問看護センターを開設
1995年 1月	宮地病院	阪神・淡路大震災により宮地病院、看護婦寮全壊
1995年 3月	宮地クリニック	旧病院の北側駐車場に宮地クリニックを開設
1996年 3月	宮地病院	医療法人明倫会　デイケア・センターを開設
1997年 4月	宮地病院	新・宮地病院を設立・開院（158床）
1998年	宮地病院	医療福祉建築賞受賞
1998年 4月	あずさ	医療法人明倫会　老人保健施設あずさ（52床）を開設
1999年 4月	在宅部門	医療法人明倫会　在宅介護支援センターフェニックスを開設
2000年 4月	在宅部門	医療法人明倫会　居宅介護支援事業所ヘルパーステーションもとやまを開設
2000年 6月		社会福祉法人明倫福祉会設立
2001年 8月	ぽー愛	社会福祉法人明倫福祉会　介護老人福祉施設ぽー愛を開設
2002年 9月	宮地病院	日本医療機能評価機構（複合病院A）認定取得
		初代理事長・院長　宮地知男死去　宮地民子が理事長に就任
		宮地千尋が宮地病院院長に就任
2004年 4月	宮地病院	医療療養型病棟57床を回復期リハビリテーション病棟に変更
2004年 4月	宮地病院	介護型療養病棟12床を廃止し医療療養型に変更、亜急性病棟8床届出
2004年 7月	在宅部門	訪問介護　指定認可　事業開始
2005年 8月	宮地病院	総合リハビリテーション施設B認定取得
2005年 10月	宮地病院	特殊疾患療養管理加算を算定
2006年 4月	在宅部門	医療法人明倫会　フェニックスあんしんすこやかセンター開設
2006年 4月	ぽー愛	みなとじまあんしんすこやかセンター開設
2006年 12月	保育園	医療法人明倫会　キッズクラブもとやま（保育所）開設
2007年 3月	愛しや	社会福祉法人明倫福祉会　介護老人福祉施設愛しや開設
2007年 5月	愛しや	社会福祉法人明倫福祉会　ヘルパーステーションあしや開設
2007年 6月	愛しや	社会福祉法人明倫福祉会　介護老人保健施設愛しや開設
2007年 6月	愛しや	愛しやに通所リハビリテーション（デイケア）開設
2007年 10月	宮地病院	神戸男女いきいき事業所表彰
2008年 3月	宮地病院	働きやすい病院評価認定
2009年 4月	宮地病院	もの忘れ予防教室「いきいき教室」開始
2009年 5月		病診連携「KIZUNAの会」発足
2009年 6月	ぽー愛	ヘルパーステーションさんぷら三宮移転・名称変更
2010年 9月	宮地病院	日本医療機能評価機構　リハビリテーション付加機能取得
2010年 11月	宮地病院	ひょうご仕事と生活のバランス企業表彰
2010年 12月	宮地病院	認知症対応型デイサービス指定認可　事業開始
2011年 1月	宮地病院	日本慢性期医療協会認定取得
2011年 3月	宮地病院	生きがい対応型デイサービス開始
2011年 5月	愛しや	訪問リハビリテーション開設
2011年 10月		宮地民子が会長に就任、宮地千尋が理事長に就任
2012年 4月	在宅部門	フェニックスあんしんすこやかセンター、本山東部あんしんすこやかセンターに名称変更
2012年 4月	ぽー愛	みなとじまあんしんすこやかセンター、港島あんしんすこやかセンターに名称変更
2013年 7月	本山リハビリテーション病院	医療法人明倫会　本山リハビリテーション病院開設
2013年 7月	愛しや	訪問リハビリテーション再開
2014年 4月	宮地病院	通所リハビリテーション「リハスタジオM」開設
2015年 4月	保育園	医療法人明倫会　キッズクラブ本山南（認可保育園）開設
2015年 4月	ぽー愛	港島あんしんすこやかセンター、圏域変更により三宮あんしんすこやかセンター開設
2015年 4月	ぽー愛	ぽー愛三宮ケアプランセンター開設
2016年 7月	宮地病院	メディカルフィットネス「Re-born」開設
2017年 4月		医療法人明倫会　地域連携室発足
2017年 4月	保育園	医療法人明倫会　キッズルームころねん（認可保育園）開設
2017年 4月	ぽー愛	居宅介護・重度訪問介護指定認可　事業開始
2017年 4月	ぽー愛	移動支援（個別支援型）事業認定取得
2017年 6月	宮地/本リハ	女性活躍推進えるぼし認定（2段階）取得
2018年 8月	宮地病院	重度認知症デイケア「つくし」指定認可　事業開始
2018年 10月	宮地病院	認知症疾患医療センター指定認可　事業開始
2019年 2月	潮騒の家	青木にサービス付高齢者向け住宅　潮騒の家（50戸）開設
2019年 5月		地域連携室と医療福祉相談室が統合、トータルサポートセンター地域医療連携室発足
2020年 3月	医療法人明倫会	女性活躍推進えるぼし認定（3段階）取得
2020年 7月	医療法人明倫会	次世代育成推進くるみん認定取得
2023年 3月	医療法人明倫会	ひょうご・こうべ女性活躍推進企業（ミモザ）企業認定取得
2024年 7月	あずさ	あずさ青木に増床移転
2024年 10月	愛しや	打出浜高齢生活支援センター開設
2025年 6月	医療法人明倫会	「アネックスM」全館及び「ポラリスホール」開設（旧介護老人保健施設あずさ跡地）

組 織 図



法人本部

医療法人明倫会

宮地病院

- 通所リハビリテーション リハスタジオM
- 重度認知症デイケアつくし
- 認知症疾患医療センター
- 愛マッサージ

本山リハビリテーション病院

トータルサポートセンター 地域医療連携室

在宅サービス部門

- 訪問看護センター
- ヘルパーステイション もとやま
- 訪問リハビリテーション
- 居宅介護支援事業所
- 本山東部あんしん すこやかセンター

介護老人保健施設 あずさ

- 入所
- ショートステイ
- 通所リハビリテーション にこにこデイケアセンター

サービス付高齢者向け住宅 潮騒の家

社会福祉法人明倫福祉会

高齢者総合福祉施設 愛(あ)しや

介護老人福祉施設 愛(あ)しや

- 介護老人福祉施設
- ショートステイ
- 居宅介護支援事業所
- ヘルパーステーション あしや
- 打出浜高齢者生活支援センター

介護老人保健施設 愛(あ)しや

- 介護老人保健施設
- ショートステイ
- 通所リハビリテーション
- 訪問リハビリテーション

介護老人福祉施設 ぽー愛

- 介護老人福祉施設
- ショートステイ
- デイサービス
- 居宅介護支援事業所
- ヘルパーステーション さんぷら
- 三宮あんしんすこやかセンター
- 三宮ケアプランセンター

宮地病院



施設概要

●開　　設	1962年5月
●診 療 科	内科　消化器内科　循環器内科　整形外科
	外科　リハビリテーション科　放射線科
	リウマチ科　心療内科　精神科
●病院種別	一般病院
●病 床 数	一般病床　36床
	地域包括ケア病床　8床
	医療、療養型病床　44床
●構造規模	地上5階　地下1階　鉄筋コンクリート造
●敷地面積	2,583㎡
●延床面積	6,266.17㎡
●救急医療	救急指定病院（二次救急医療施設）
●特殊外来	もの忘れ（認知症）外来　糖尿病外来
	禁煙外来　フットケア外来　骨粗しょう症外来
	頭痛外来
●認定施設	神戸大学医学部臨床研修協力施設
	ひょうご女性活躍推進企業（ミモザ企業）認定取得

ごあいさつ　院長　宮地千尋



グループの旗艦となる宮地病院は、2024年に創業70周年を迎えました。また、2025年は阪神淡路大震災後30年となります。これまで地域と共に困難を乗り越え歩んでまいりましたが、これからも地域の医療・福祉、防災、健康増進に力を合わせて取り組んでまいります。

私たちは、連携して地域の皆さまが住み慣れた場所で「その人らしく生きる」ことを支え続けます。病気になったとき、介護が必要になったときだけではなく、なんでも気軽に相談にでき、楽しい教室やイベントがありいつも行きたくなる場所、コミュニティ・ホスピタルを目指しています。皆さまのご協力、ご指導をお願い申し上げます。

本山リハビリテーション病院



施設概要

●開　　設	2013年7月
●診 療 科	内科　神経内科　循環器内科
	整形外科　脳神経外科
	リハビリテーション科　放射線科
●病 床 数	障害者病棟　40床
	回復期リハビリテーション病棟　80床
●構造規模	地上5階地下1階　鉄筋コンクリート造
●敷地面積	2199.66㎡
●建築面積	1650.68㎡
●延床面積	7624.54㎡
●認定施設	日本医療機能評価機構認定リハビリテーション病院
	日本リハビリテーション医学会研修施設

ごあいさつ　院長　齋藤　実



急速な少子高齢化が進み、ご高齢の方々のみの世帯が増加しています。このような変化の中で当院は開院から13年を経て、脳卒中や整形外科疾患、神経難病の患者様がより良く過ごせるように取り組んでまいりました。リハビリテーションの提供により在宅復帰の支援だけでなく、法人全体として皆さまの生活を支えることを目標に取り組んでおります。より快適な過ごしやすい病院として更なる発展を遂げ、地域包括ケアシステムの構築に貢献してまいります。今後も皆さま方のご指導をお願いいたします。

介護老人保健施設あずさ



施設概要

●開　　設	1998年4月
●構造規模	地上4階　鉄筋コンクリート造
●敷地面積	1991.46㎡
●建築面積	1454.60㎡
●延床面積	4174.01㎡
●入所定員	100名
	（短期入所（予防短期入所）療養介護含む）
	対象者：入所要介護1～5
	短期入所要支援1～要介護5
●療養室	個室100室
●通所定員	80名
	（介護予防通所リハビリテーション含む）
	対象者：要支援1～要介護5

ごあいさつ

施設長　田村和義



日本社会は急速に少子高齢化が進み、高齢者を支える子や孫たちが減ってきているため、各家庭で高齢者を支えることができなくなってきています。本来なら老健施設などが、家庭にかわる役割を果たすべきと考えますが、国が定めた最低職員数は認知症の方が80%を超えるようになってくると、十分なサービスを提供するには少なすぎます。そこは、創意工夫やデジタル化で乗り切っていくしかないと思いますが、地域貢献を含む社会的使命の達成、利用者個人にあったサービスの提供、施設職員の更なる働き甲斐や目標設定など、3年目施設長としてまだまだ試行錯誤中です。老健あずさに、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

介護老人福祉施設ぽー愛



施設概要

事業内容

●ショートステイ	●デイサービス
●居宅介護支援事業所	●ヘルパーステーションさんぷら
●三宮あんしんすこやかセンター	●ぽー愛三宮ケアプランセンター

●開　　設	2001年8月
●構造規模	RC造(一部SRC造)地上4階建
●敷地面積	3,037㎡
●建築面積	3,996㎡
●定　　員	入所50名
	ショートステイ20名
	デイサービス45名

ごあいさつ

施設長　奈良信太郎



利用者の皆さまに安心していただける、あたたかい介護サービスの提供に努めています。今後も地域住民や関係機関との連携を深め、情報共有や支援体制の強化を図ることで、より質の高いサービスを実現してまいります。また、職員一人一人が専門性を高め、利用者様の生活に寄り添った支援を継続できるよう、研修や学びの機会を積極的に取り入れていきます。さらに、地域の皆さまが気軽に足を運び、相談しやすい事業所づくりを進めるとともに、DX推進による業務効率化や情報共有の高度化にも取り組んでいます。地域の介護を支える力をともに広げ、誰もが安心して暮らせる環境づくりに力を尽くしてまいります。

介護老人福祉施設愛しや



ごあいさつ　施設長　和田周郎



世界が目まぐるしく変化し先行きが不透明な情勢が続く中で、愛しや特養では多様な人材を活用するダイバーシティ経営、DX推進、働き方改革といった新たな時代の価値観に合った組織づくり・施設づくりを時代に先駆けて行ってまいりました。一方で昔ながらのアナログな視点や考え方のすべてを否定するのではなく、非効率で時代遅れに見えるかもしれない物事の中でしか得られない良さ、温かさも大切に施設運営に取り組んでおります。どんなに厳しく困難な状況にあっても常に進化しつつ、高齢者の皆さま、そして地域社会に変わらぬ幸せと明るい未来を届け続けることができるよう、愛しや特養職員一同これからも尽力してまいりますので何卒よろしくお願いいたします。

施設概要

(高齢者総合福祉施設　愛しや)

●開　設	2007年3月	
●構造規模	鉄筋コンクリート5階建	
●敷地面積	4,992．57	
●延床面積	7,912．49	
●定　員	特養	入所80名
		ショートステイ20名
	老健	入所77名
		短期入所3名
		デイケア45名

介護老人保健施設愛しや





ごあいさつ　施設長　髙橋弥生

私たちは「かかりつけ老健」を目指しています。老健は病院と自宅の中間的な施設です。

高齢者の方は入院により病気が治癒しても体力が低下し在宅に戻れなくなることがあります。そのような時、老健施設に入所していただき専門職による多方面からの体調管理により在宅に戻れるよう支援します。老健を退所した後もデイケア、ショートステイ、訪問リハビリを利用していただくことで住み慣れた地域でその人らしい暮らしが継続できるよう支え続けます。また、認知症の家族様を抱え大変な思いをしている皆さまにも施設でお預かりすることで少しの間でも笑顔を取り戻していただけるようにしたいと思います。

サービス付き高齢者向け住宅 潮騒の家



施設概要

●所在地	神戸市東灘区青木3丁目1-43 （阪神青木駅から徒歩6分）
●構造規模	鉄骨造　地上4階建
●敷地面積	1,995.41㎡
●延床面積	2,308.85㎡
●総戸数	50戸（全室個室）
●入居の要件	自立・要支援・要介護

施 設 一 覧

医療法人明倫会 宮地病院	〒658-0016 神戸市東灘区本山中町4-1-8 TEL.078-451-1221
医療法人明倫会 本山リハビリテーション病院	〒658-0015 神戸市東灘区本山南町7-7-15 TEL.078-412-8080
医療法人明倫会 介護老人保健施設あずさ	〒658-0027 神戸市東灘区青木3-1-48 TEL.078-451-0004
医療法人明倫会 訪問看護センター	〒658-0016 神戸市東灘区本山中町4-7-7 アネックス2F TEL.078-451-0005
医療法人明倫会 ヘルパーステイションもとやま	〒658-0016 神戸市東灘区本山中町4-7-7 アネックス1F TEL.078-451-0231
医療法人明倫会 本山東部あんしんすこやかセンター	〒658-0016 神戸市東灘区本山中町4-7-7 アネックス1F TEL.078-451-0054
医療法人明倫会 居宅介護支援事業所	〒658-0016 神戸市東灘区本山中町4-7-7 アネックス1F TEL.078-451-9933
サービス付き高齢者向け住宅 潮騒の家	〒658-0027 神戸市東灘区青木3-1-43 TEL.078-436-1400
社会福祉法人明倫福祉会 介護老人福祉施設ぽー愛	〒650-0046 神戸市中央区港島中町5-2 TEL.078-303-0600
社会福祉法人明倫福祉会 ヘルパーステーションさんぷら	〒651-0094 神戸市中央区琴ノ緒町3-3-26 平田ビル2階 TEL.078-265-0677
社会福祉法人明倫福祉会 三宮あんしんすこやかセンター	〒651-0094 神戸市中央区琴ノ緒町3-3-26 平田ビル1階 TEL.078-271-0185
社会福祉法人明倫福祉会 三宮ケアプランセンター	〒651-0094 神戸市中央区琴ノ緒町3-3-26 平田ビル1階 TEL.078-271-0186
社会福祉法人明倫福祉会 介護老人福祉施設愛(あ)しや	〒659-0032　芦屋市浜風町31-3 TEL.0797-23-7300
社会福祉法人明倫福祉会 介護老人保健施設愛(あ)しや	〒659-0032 芦屋市浜風町31-3 TEL.0797-23-7300
社会福祉法人明倫福祉会 ヘルパーステーションあしや	〒659-0032 芦屋市浜風町31-3 TEL.0797-23-7321
社会福祉法人明倫福祉会 打出浜高齢者生活支援センター	〒659-0033 芦屋市高浜町6-1 グルメシティ芦屋浜店1階 TEL.0797-34-5001

明倫ヘルスケアグループ　CSRレポート2025　　発行2026年 11月　　発行者　明倫ヘルスケアグループ

Meirin Healthcare Group CSR Report 2025

明倫ヘルスケアグループ
〒658-0016　神戸市東灘区本山中町 4-1-8　078-451-1221　https://meirinhealthcare.com/